

平成20年(2008年)度  
海外県人会ホームステイ派遣事業報告書



沖縄県観光商工部交流推進課

(受託) 沖縄 NGO 活動推進協議会



## はじめに

ウチナーンチュは、約 100 年前に始まった海外移民の時代から現在まで、多くの人世界各地に雄飛し、活躍しております。沖縄県では、この世界に広がるウチナーンチュのネットワークを有効に活かし、ホームステイを通して、海外と県内のウチナーンチュの若い世代の双方向の交流を推進する「ホストファミリーバンク推進事業」を実施することになりました。

これは、2006 年 10 月に開催された、「第 4 回世界のウチナーンチュ大会」の際の、海外県人会・民間大使会議において、「ホストファミリーバンク事業」の推進が決議されたことによるものです。

その背景としては、海外の沖縄県人会等においては、時とともに母県沖縄を知らない世代が増え、ウチナーネットワークの担い手となる次世代の人材育成が課題となっていることがあります。一方、県内においては、海外移民の歴史や世界のウチナーンチュとの持続的な交流を次世代にきちんと継承していくことへの要望が高まってきたこと等があります。

沖縄県の若い世代を海外県人会のもとへ派遣する「海外県人会ホームステイ派遣事業」について、今回の受け入れ先は、米国ハワイ州・ハワイ沖縄連合会、米国カリフォルニア州・北米沖縄県人会、カナダアルバータ州・レスブリッジ沖縄文化協会に決定し、また、ホームステイ参加者については、作文、面接による選考を経て、18 名を選出しました。

これら参加者は、移民の歴史や日常英会話、さらに海外にて「沖縄」を伝えるプレゼンテーションの事前研修を受け、海外でのホームステイに臨みました。ホームステイ参加者は、派遣地において、海外においてもユイマール精神で連帯し、沖縄の伝統、文化を継承しようと情熱を傾ける県系人と触れあうことができました。10 泊 12 日間の日程をこなした参加者は、異文化体験を通して沖縄の伝統、文化などの習得への意欲を強くし、また語学力の向上や将来の進路に海外も視野に入れるなど、意識の変化をもたらし、沖縄の若い世代の心を大いに刺激する体験になったようです。

ここに今回の事業を記録し、全体について振り返るとともに、事業の成果を検証し、反省点については次回実施に向け、改善していくための参考にしていきたいと考えております。

この度、ホームステイを受け入れていただきました、ハワイ沖縄連合会、北米沖縄県人会、レスブリッジ沖縄文化協会の皆様に改めて感謝申し上げます。また、ホームステイに参加した学生の皆様におかれましては、国際的な視野を一層広げ、将来のウチナーネットワークを継承・発展させ、国際交流・協力の担い手としてご活躍されることを期待しております。関係者の皆様におかれましては、今後とも本県の国際交流・協力施策にご協力下さいますよう、お願い申し上げます。お願い申し上げます。

平成 20(2008)年 11 月

沖縄県観光商工部交流推進課  
課長 大城 眞幸

# 目次

---

項 目	頁
1. はじめに	
2. 目次	
3. 参加者	..... 1
4. 事業の流れ	..... 2-6
(1) 事業経過	..... 2
(2) ホームステイ日程	..... 3-5
(3) 事前研修	..... 6
(4) 事後研修	..... 6
5. ホームステイを終えて(参加者感想)	..... 7-16
6. 実施体制	..... 17
7. アンケート結果	..... 18-22
(1) 参加者(派遣前)	..... 18
(2) 参加者(派遣後)	..... 18-20
(3) ホストファミリー	..... 20-22
8. 思い出の一コマ	..... 23-28
9. 編集後記	..... 29

# 参加者

カナダ(レスブリッジ)		
1	伊波 美南海	コザ高等学校 2年
2	上原 英里奈	北中城高等学校 2年
3	高宮城 優子	琉球大学 3年
4	多和田 里美	浦添高等学校 3年
5	中里 有紀子	首里東高等学校 3年
随 行	玉城 大河	沖縄県交流推進課
米国(ロサンゼルス ガーデナ)		
1	金城 未来	中部農林高等学校 2年
2	金城 瑞希	屋部中学校 3年
3	佐久本 理恵	首里東高等学校 2年
4	高瀬 隼	座間味中学校 3年
5	比嘉 彩月	首里中学校 2年
6	宮城 星乃	屋部中学校 3年
随 行	金城 さつき	沖縄 NGO 活動推進協議会
米国(ハワイ)		
1	片山 明子	琉球大学 3年
2	嘉陽田 三佳	首里高等学校 2年
3	金城 杏奈	那覇西高等学校 1年
4	西 由良	首里中学校 2年
5	西原 奈菜	琉球大学附属中学校 1年
6	辺土名 盛之	潮平中学校 2年
7	宮平 杏奈	座間味中学校 3年
随 行	川口 あやめ	沖縄県交流推進課

## 事業の流れ

### (1) 事業経過

日程	内容	場所・その他
5月	参加者募集開始	
6月6日	応募〆切(46名応募)	
6月10・11日	面接	沖縄県庁
6月12日	選定会議、参加者決定	沖縄県庁
6月16日	参加者決定通知	沖縄県
6月29日	第一回オリエンテーション	JICA 沖縄国際センター
7月12日	第二回オリエンテーション	JICA 沖縄国際センター
7月23日	カナダ(レスブリッジ)米国(ガーデナ)へ 向け出発 カナダ(レスブリッジ)、米国(ガーデナ)到 着	那覇空港～成田空港～サンフランシス コ空港～レスブリッジ空港 那覇空港～成田空港～ロサンゼルス 国際空港
7月24日	米国(ハワイ)へ向け出発 ハワイ到着	那覇空港～羽田空港～成田空港～ハ ワイ
8月2日	カナダ(レスブリッジ)米国(ガーデナ)より 日本へ向け出発	レスブリッジ～カルガリー～成田空港～ 那覇空港
8月3日	カナダ(レスブリッジ)米国(ガーデナ)より 那覇空港到着	ロサンゼルス～成田空港～那覇空港
8月3日	米国(ハワイ)より日本に向け出発	ハワイ～成田空港～羽田空港～那覇 空港
8月4日	米国(ハワイ)より那覇空港到着	
8月23日	事後研修・報告会	JICA 沖縄国際センター

(2)ホームステイ日程

【カナダ (レスブリッジ)】

<b>1日目:7月23日(水)</b>
11:20 那覇発→成田、米国サンフランシスコ経由→カルガリー空港着→専用車にてレスブリッジへ移動→日付が変わった3:00金城会長宅到着(成田にて航空機の機器故障により出発時間が遅れ、乗り換え便に間に合わなかったため到着が大幅に遅れることとなった)
<b>2日目:7月24日(木)</b>
午後:参加者各ホストファミリー宅へ
<b>3日目:7月25日(金)</b>
ライティングオンザストーン州立公園観光、 BBQ(金城会長宅)、日系文化協会主催盆踊り
<b>4日目:7月26日(土)</b>
戦時補償問題合意20周年式典参加 トミヤマさん宅でディナー
<b>5日目:7月27日(日)</b>
お盆行事参加(お墓参り、お寺での法要) ナカマさん宅でディナーパーティー
<b>6日目:7月28日(月)</b>
ワータートン国立公園観光
<b>7日目:7月29日(火)</b>
レスブリッジ市長訪問、レスブリッジ大学見学 ササさん宅でディナー
<b>8日目:7月30日(水)</b>
ワシ、タカ猛禽類施設見学 金城会長の空手道場見学、交流会
<b>9日目:7月31日(木)</b>
ショッピング レスブリッジ沖縄文化協会による送別会
<b>10日目:8月1日(金)</b>
レスブリッジ発 専用車にてカルガリーへ(約2.5時間) カルガリー在住県系人経営レストランにてランチ カルガリーにてホテル宿泊
<b>11日目:8月2日(土)</b>
06:35 カルガリー発→8:29 サンフランシスコ着(2時間54分) 11:25 サンフランシスコ発
<b>12日目:8月3日(日)</b>
14:00 成田着 入国審査(パスポート提示) 17:45 成田発→20:40 那覇着 解散式

【米国（ガーテナ）】

<b>1日目：7月23日(水)</b>
11:20 那覇発→成田着（2時間） 14:00 成田着→17:30 成田発→11:33 ロサンゼルス着（10時間） 北米県人会出迎え、北米県人会・沖縄センターへ 19:00 歓迎会
<b>2日目：7月24日(木)</b>
・ フリータイム
<b>3日目：7月25日(金)</b>
午前：カリフォルニア大学・ロサンゼルス校 午後：ウエストウッド・ハリウッド見学
<b>4日目：7月26日(土)</b>
午前：ワークショップ 午後：ベニス・ビーチへ
<b>5日目：7月27日(日)</b>
午前：リトル東京見学 午後：日系ペアレンツ・デー（日系父母の日）参加、盆祭り、グリフィス天文台等見学
<b>6日目：7月28日(月)</b>
午前：オルベラ・ストリート（リトル・メキシコ） 午後：ドジャーズ試合観戦
<b>7日目：7月29日(火)</b>
終日：ユニバーサル・スタジオ滞在
<b>8日目：7月30日(水)</b>
午前：TJS24 時間ラジオ局・インタビュー（日本語） 午後：プール&BBQパーティ（大城家にて）、ナッツ・ベリー・ファーム（遊園地）
<b>9日目：7月31日(木)</b>
午前：全米日系博物館（Japanese American National Museum） 夜（19:00）さよならパーティ
<b>10日目：8月1日(金)</b>
午前：ショッピング 午後：スパゲティ&ミール・パーティ（ラ・ロシェー家にて）
<b>11日目：8月2日(土)</b>
10:00 ロサンゼルス空港集合 13:04 ロサンゼルス発→成田空港（11時間26分）
<b>12日目：8月3日(日)</b>
16:30 成田着 入国審査→17:45 成田発→20:40 那覇着（2時間55分）



【米国 (ハワイ)】

<b>1日目:7月24日(木)</b>
13:40 那覇発→16:55 羽田着 リムジンバスで成田空港第二ターミナルへ 22:00 成田発→10:25 ホノルル着(7時間 25分フライト) ホストファミリー出迎え、ハワイ沖縄センターにてオリエンテーション、昼食後ホストファミリーと各家庭へ
<b>2日目:7月25日(金)</b>
ホストファミリーと自由時間 夕方:盆踊り
<b>3日目:7月26日(土)</b>
スワップミート(フリーマーケット)へショッピング、パールハーバー(アリゾナ記念館) ホストファミリーと過ごす
<b>4日目:7月27日(日)</b>
ホストファミリーとの自由時間 ピクニックに参加:佐敷知念同士会(アラモアナ公園)、玉城クラブ(カピオラニ公園)
<b>5日目:7月28日(月)</b>
ポリネシア文化センターへ
<b>6日目:7月29日(火)</b>
ハワイアンウォーターアドベンチャーパーク
<b>7日目:7月30日(水)</b>
ダイヤモンドヘッド登頂、ワイキキ散策
<b>8日目:7月31日(木)</b>
市内ツアー:キングカメハメハ像, 州議会議事堂, パンチボウルの国立太平洋墓地、ヌアヌパリ展望台よりコ オラウ山脈の985フィートの断崖を展望 アロハパーティ
<b>9日目:8月1日(金)</b>
ホストファミリーとの自由時間
<b>10日目:8月2日(土)</b>
ホストファミリーと自由時間
<b>11日目:8月3日(日)</b>
13:00 ホノルル発
<b>12日目:8月4日(月)</b>
12:00 成田着(7時間 55分フライト) リムジンバスで羽田空港へ(3000円) 16:05 羽田発→18:35 那覇着

### (3) 事前研修

派遣までの日程確認、参加者同士の連帯感を深める、参加者の意識を高めることを目的に、以下の研修を行った。

#### ◇ 第1回 オリエンテーション

日時: 2008年6月28日(土) 10:00~17:00

場所: JICA 沖縄国際センター ニライホール

内容: 保護者説明会、旅行社からの説明、質疑応答、語学研修、派遣地情報、沖縄移民の学び、事前学習(テーマを見つける)、次回までの準備事項確認

講師: 儀保・ダーシー・タラ(ハワイ県費留学生)・・・派遣地情報

配布資料: 研修資料(保護者用、参加者用)

【事業概要、ホームステイ日程、ホームステイ心構え、沖縄移民について、派遣地情報、英会話集、参加者一覧、事前学習調べノート(伝えたい沖縄のこと、現地について調べたこと)他】

#### ◇ 第二回 オリエンテーション

日時: 2008年7月12日(土) 10:00~17:00

場所: JICA 沖縄国際センター ニライホール

内容: 昨年度参加者体験談、語学研修、発表準備(伝えたい沖縄のこと)、役割分担、出発までの日程確認

講師: 儀保・ダーシー・タラ(ハワイ県費留学生)・・・語学研修、派遣地情報

林・レミ・ビクトリア(アメリカ県費留学生)・・・語学研修、派遣地情報

棚原・アリス・美紀(カナダ県費留学生)・・・語学研修、派遣地情報

昨年度参加者: 栗国風花(読谷中3年)、上間ゆうな(北谷高校3年)、祖慶拓真(未来工科高校2年)、野崎敦史(那覇西高校2年)、山城美紀(琉球大学4年)、

配布資料: 活動日誌

【緊急連絡網、日程表、活動日誌、歌集、地図など】

### (4) 事後研修

帰国後、事前研修からホームステイ派遣中までのことを振り返り、参加者より体験報告してもらった。

日時: 2008年8月23日(土)

場所: JICA 沖縄国際センター ニライホール

参加者: ホームステイ参加者、参加者家族、留学生、昨年度参加者、事業関係者

### 【レスブリッジ】



高宮城 優子(琉球大学理学部 3年)

7月23日水曜日に沖縄を出発してカナダのレスブリッジに向けて成田空港に向かった。初日から運悪く、那覇空港では混雑し、サンフランシスコ行きの飛行機は空調の故障のために2時間以上遅れで出発したためにサンフランシスコ空港では、約7時間遅れでカルガリーに出発した。結果レスブリッジに到着したのは夜中の3時だった。そんなトラブル続きだったが、そのトラブルのために6人での時間が長く、それぞれの心の中にあつた不安感がなくなった。

レスブリッジは自然がとにかくすばらしい。いかにも映画で見る外国の風景がそこにはあり、何もかもが新鮮に思えた。

私はホストファミリーを沖縄にいる自分の両親を思うように日々心がけていた。私がホストファミリーの家に来た翌朝には、朝4時半に目が覚めたのでホストファミリーのために朝食を作った。作った後に“勝手にキッチンを使って失礼ではないか”と不安になった。しかし、ホストファミリーの奥さんのマリーンは自分の子どもにも今まで一度も料理を作ってもらったことはなかったと言って、喜んでくれた。その事がきっかけとなり、ホストファミリーとの距離が一気に縮まった気がした。また、3日目以降からは他のホストファミリーと一緒に行動することが多くなり、他のホストファミリーとも親しみが持てた。ウォータートン国立公園にケンさんが片道3時間、130kmの道のりを一人で運転してくれた。私の英語不足のために運転中ケンさんに退屈な思いをさせたことが私の反省すべき点だ。その時に“もっと私に英語力があれば”と、強く思ったので、今後、2年か3年後に開かれるウチナーンチュ大会までに英語力をつけるのが目標である。10日間という短い期間だったが、私達は多くの人に助けられ守られ、愛情をそそがれたから、日々安全に楽しく過ごせた。心から感謝し、今後もレスブリッジの方々の絆を大切にしていきたい。



上原 英里奈(北中城高等学校 2年)

7月23日からカナダへホームステイをしました。私は、この日がずっと待ち遠しくて、とても楽しみにしていました。

沖縄から成田に行き、成田からサンフランシスコ、サンフランシスコからカルガリーへ行きました。飛行機に乗っている時間が長かったので、とても疲れしました。初めての入国審査も簡単だと思ったけど、予想外に大変でした。日程では、夜の7時にレスブリッジ着だったけど、遅れて夜中の3時頃到着しました。なのでこの日は、金城会長の家に泊めてもらいました。夜は寝ないで、みんなで色んな話をして、みんなとても仲良くなりました。

次の日は、それぞれのホストファミリーの家に行きました。ホストの人達はとても優しく迎えてくれて、嬉しかったです。その後、スーパーマーケットに行き、夜は、息子さんと娘さんも一緒にご飯を食べました。みんなと初対面で緊張していたけど、嬉しかったです。

次の日からは、色々な場所へ連れて行ってくれました。カナダは私が思っていたより、とても自然で長くて広い、沖縄では考えられないほど大きな道の隣には馬や牛、野生のシカとかもいて、本当に自然ですごいなあと思いました。

また、沖縄とは違うお盆にも参加しました。日本風なお盆で、外国人が浴衣を着て、盆踊りを踊っていました。なので私達も盆踊りに参加して、ノリノリで踊りました。

ウォータートン国立公園に行き、ロッキー山脈も見に行きました。あの景色の素晴らしさに私は興奮しました。

その後も毎日いろんな所に行き、たくさんの人達と会うことができました。みんな初対面なのに、とても優しくて私は本当に本当に!!!カナダが大大大大大大大好きになりました。沖縄に帰りたくなかったです。カナダで出逢った人達に感謝したいです。そして英語をもっと勉強してカナダに戻りたいです。カナダは本当に最高でした!



中里有紀子(首里東高等学校 3年)

カナダでのホームステイは驚きと発見だらけでした。車に乗って走っていると道がとても広く真っすぐにのびていて、初めて地平線を見ました。食べ物は、聞いていた通りサイズが大きくて、スーパーに行った時見たケーキが本当にこれを1回で食べることができるのかと思いました。外国人のイメージはしっかりと自分を持っていてサバサバしていると思っていました。実際は、逆にとても温かくて親切な人が多く、自分の外国人に対してのイメージが変わりました。毎日、色々な発見と驚きがありました。中でも一番印象に残っているのは、ウォータートン国立公園で見た景色でした。大きなホテルが建っている丘から見た景色は、キレイとか、スゴイでは表現できないほどの衝撃を受けました。これが人の手ではなく自然の力で出来たからこそ、人を感動させられるのではないかと思いました。

カナダで、少し悲しくなった事がありました。それは、仕事があるのに働かず、人の物を盗む人がいるということです。こんなにいい所でもそんな事をする人がいるということを知って悲しくなりました。そして、どこに住んでいても自分次第なんだと思いました。

今回のホームステイでは、色々な意味での良い体験ができ、自分を成長させる糧になりました。忙しい中でも私達をみてくれたホストファミリーの方々、私をカナダに行かしてくれたお父さん、お母さん、色々とよくしてくれた金城さんや県人会の皆さん本当にありがとうございました。

期待や不安を同じようにもって一緒に旅立った、玉城さん、ゆうこさん、えりな、みなみ、さとみ、このメンバーで行けて本当に良かったです。ありがとうございました。



ホームステイをして

多和田 里美(浦添高等学校 3年)

私は幼い頃から英語が好きで、海外に行くことにとても興味がありました。初めての海外で、とても楽しみでした。しかし、私は英語を使って上手く話せないのが会話がかんたん出来るか不安でした。

初めカナダに着いたとき、外は暗くて冬みたいひんやりしていましたが、あまりにも来た感じがしませんでした。でも、コンビニに入るとみんな外人だったので、「あーカナダに来たんだ」と実感しました。カナダに来て3日間お盆がありました。1日目は盆踊りをして、2日目は式典のお手伝いをして、最終日はお墓と教会に行きました。3日間のお盆は日本と全然違い驚きました。カナダではロッキー山脈、大学見学、猛禽類などを見に行きました。一番感動したのは、ロッキー山脈です。本や雑誌ではよく見ていたけど、実際間近で見るととても大きくて、山には雪が残っていてキレイでした。湖の水も冷たくて気持ちよかったです。帰り道で、バッファローを見たり、牛や馬も見ました。カナダはとても自然がたくさんあってどの道走っても草だらけでとてもすごかったです。

カナダは本当に自然がたくさんでした。それだけではなくとてもやさしくしていい人ばかりです。私は、ホームステイを通して県人会のこと以外にカナダのこと、レスブリッジのことについて沢山知ることができました。まだまだ足りませんが、私はもっとカナダのことが好きになりました。それだけではなく、空手についても知り、関心を持つようになりました。このホームステイで少しだけ変わったような気がします。



### カナダ最高！

伊波 美南海(コザ高等学校 2年)

出発前、私は期待でいっぱいでした。那覇空港を出発して、成田空港に行き、サンフランシスコ空港からカルガリー空港に行きました。途中、クーラーの故障とかで長時間待たされたりして、クタクタでした。

レスブリッジについてから、金城会長の家に1泊しました。そこでみんなお喋りして夜中まで起きていました。

次の日の朝になって、それぞれのホストファミリーの方が迎えに来てくれました。

私達のホストファミリーは、TOMIYAMA さんで、とても優しく明るくて、お父さんのジムさんは少し日本語も話せて、日常生活でも助けてもらった事もたくさんありました。また、ペットのティートーも人なつっこくてとてもかわいかったです。

最初に日程を見たときは、他の国よりなんか楽しいのがなさそうだなとおもっていたのですが、実際にカナダに行くと、その日程をこなしていくと、本当に毎日楽しくてHappyに過ごす事ができました。その中でも一番心に残っているのが、ロッキー山脈です。そこはもう超キレイでここだったら死んでも良いと思いました。もう本当に素晴らしくて、写真もいっぱい撮ったし、マイナスイオンを感じました。ロッキー最高っ!!

このホームステイを通して、たくさんの人に触れあって、人の温かさやありがたさを学びました。そして一緒に行ったメンバーとも仲良くなって、本当に多くの人と関わって友達になる事ができたので良かったです。

カナダもうまじ大好きです。絶対帰ります。



### ホームステイを終えて

佐久本理恵(首里東高等学校 2年)

私は、今回の沖縄県人会海外ホームステイ派遣プログラムに参加して、たくさんの方を学び、とても楽しむことができました。

私は初めての海外だったので、行きの飛行機の中ではとても緊張していましたが、ロサンゼルスに着いたとき、県人会の方々が空港で温かく迎えてくれたので、とても嬉しかったし、安心できました。県人会の方々は、みんなとても優しく、長旅をしてきた私たちのことを、とても気遣ってくれたり、アメリカの話を聞かせてくれました。私は、こんなに温かい方々に歓迎されて、とても幸せな気持ちになりました。ホストファミリーのデニスさんとジョーンさんも、とても親切に迎え入れてくれて、我が子のようにかわいがってくれたので、とても嬉しかったです。

また、県人会の方々は、私たちを色々な場所へ連れて行ってくれました。どの場所もとても楽しくて、本当に全部が心に残っています。遊園地でジェットコースターに乗ったり、カリフォルニア大学の大きさに驚いたり、ハリウッドの町並みに感動したり、日系ペアレンツデーに参加したり、リトル東京で移民の歴史を学んだり、ドジャースの野球観戦をしたり、ラジオに出演したりと、アメリカだからこそできる貴重な体験になりました。プールパーティや、マリリンの家でのラザニアパーティも、とても楽しかったです。

このホームステイでは私は、人との出会いの大切さを、改めて実感しました。ホストファミリー、県人会の方々、アメリカで友だちになった子達、一緒に行ったメンバー、さつきさんと、十日という短い期間の中で、本当にたくさんの方と出会い、色々な経験をしました。沖縄へ帰るときはとてもさびしかったけど、これからも出会いを大切に、またいつかアメリカへ行って、OAAを訪れたいです。



### ホームステイ・プログラムに参加して

宮城 星乃(屋部中学校 3年)

ホームステイ・プログラムに参加するために、まず最初に実行したのが作文で、最後の日には、夜8時まで学校に残り書きました。そして、まちに待った面接の日でした。人生初めての面接はドキドキが止まりませんでした。いよいよ私の番が回ってきました。言葉の整理はできていなくても、思った事は全部伝えました。面接も無事終えて、結果通知を待つだけでした。

そして、6月28日、第1回のオリエンテーションを行い、他のグループは、第1回オリエンテーションから仲良く、話し合いもスムーズに行っていました。そして第2回目のオリエンテーションでも、自分たちのグループは、何もかもスムーズに行えず、自分自身も心配でした。昨年の参加者の話を聞くと、「初めは、皆恥ずかしがっても、最後はチームワークが良くなっていくよ」と言ってくれ安心しました。その言葉を信じて、いよいよ7月23日、朝早くから空港に行きました。空港でもなかなかしゃべれない私たちのグループは本当に大丈夫なのか?!と思いつつも、飛行機に乗り、約11時間も飛行機の中にいるので暇でした。だけど、その時間が、私たちのチームワークを救いました。お隣どうし暇なので、会話をするようになりました。

そして現地に着いて、まず驚いたのが道路の大きさ・スピードの速さ、もちろん食べ物の量にも驚きました。県人会の方々に、温かく迎えられ、片言の日本語と英語で会話をしました。

県人会の方々にいただいた俳句がとても印象的でした。開拓時代を生き、今があるのだと短い文から苦労が読み取れました。そして、チームワークの大切さを国境を越えての人と人のつながり、人を思う気持ちは同じで、大切だとつくづく感じました。

長いようで短かった期間、色々な事を学び、楽しい思い出が作れ、また私たちと同じ年の子ども達とも触れ合いました。そこで感動したのが、「レディーファースト」です。

アメリカに行き何もかも、自信ができました。このホームステイに参加させてくださった mother & father にどうお礼をしていいかわかりません。この体験を活かして、少しでも将来の夢に役立てたら良いなと思いました。



### アメリカへ行って

金城 瑞希(屋部中学校 3年)

アメリカでは学ぶことがたくさんありました。そして遊園地もたくさんありました。十日間という短い期間の中で、これだけの体験ができたのは本当に幸せだと思います。

初めてのアメリカでは、何よりも道路の広さに驚きました。フリーウェイでは片道が五車線ぐらいあり、カーレースのようにビュンビュンとばすのではじめはすごく緊張しました。でも帰るころには慣れっこになっていて、沖縄の車で遅く感じました。

アメリカへ行って初めて知ったことは、日系人が第二次世界大戦のときに迫害を受けていたということです。リトル東京には、「GO FOR BREAK」と書かれた大きな石碑があり、アメリカ人からの信頼を得るために戦いに行ったたくさんの日系人の名前が彫られていました。自分たちの生まれ故郷である国から迫害を受け、強制収容所に入れられた人たちは、悲しい思いも悔しい思いもたくさんしたんだろうなあと感じました。私たちが戦争のことを学ぶには、このようなことをちゃんと知らないといけないと思います。すでに家族には話しましたが、学校でも友達に伝えることができるといいです。

ほかにもアメリカには、カーニバルやユニバーサルスタジオ、ナッツベリーファームなど大きな遊園地がいくつもあって本当に面白かったです。私は初めて絶叫系のアトラクションに挑戦しました。アメリカの人は、落ちる前

からキャーキャー叫ぶのでそっちの方が怖かったです。でも、ジェットコースターが、大好きになり、一日中遊んでもまだまだ遊び足りないくらいでした。

初めてのアメリカで、習慣も食生活も全然違う環境でしたが、すぐ順応することができました。友達もたくさんでき、十日間をととても楽しみました。毎日充実したスケジュールを組んでくれた OAA の皆さんや、送り迎えをしてくれたホストファミリーのおかげです。本当にありがとうございました。この十日間は、私にとって大切なものになりました。この経験を忘れず、これからに活かしていきたいと思います。

---



#### ホームステイを終えて

比嘉 彩月(首里中学校 2年)

今回のホームステイでは、県人会の方から外国で生活を立てていくことの苦勞や、努力されていることなどを学びたいと思っていました。

ガーデナに行って、一番印象に残った所は、全米日系博物館です。そこで、日本から移民してきた人たちの歴史を学びました。第二次世界大戦のとき、日系人は強制収容所に入れられていました。強制収容所での生活は辛く、苦しかったそうです。終戦後、財産も失って何も無い中から、がんばって暮らしを立てていったのはすごいと思いました。外国で生活することは、思っていた以上に厳しく大変なんだと分かりました。

ホームステイに行って前よりも英語が好きになりました。沖縄のことについて調べたことを英語に直したり、県人会の二世や三世の方と喋ったりするのは難しかったけど、相手に伝わったりしたときは楽しかったです。

アメリカに行って、異文化についてもっと興味を持ちました。アメリカ以外の国々の文化にも触れてみたいです。

県人会の方々はみんな私たちに優しくしてくれました。歓迎会では、まるで親のように暖かく迎えてくださいました。毎日、朝早くから夜遅くまで色々なところに連れて行ってくださいました。一日一日が充実していて楽しかったです。

事前研修のとき、グループのみんなが喋ったりしなかったけど、ガーデナに行って、たった十二日間でとても仲良くなったことが嬉しかったです。

この派遣事業に参加してよかった事は、外国に友達ができたことと、学びたかった事意外にも様々なことが学ぶことができたことです。家族旅行ではめったに体験できない事ができたと思います。この経験を活かして将来の夢に向かってがんばっていきたいです。

---



#### ホームステイを終えて

高瀬 隼(座間味中学校 3年)

僕は、アメリカにホームステイして、いろいろな体験をしました。

一番最初に、びっくりしたことは、アメリカに飛行機が着くと乗客の人たちが拍手をしたことです。次に、飛行機を降りると、県人会の人たちが迎えに来てくれたのでうれしかったです。僕達のホストファミリーは、マリリンという人で、とてもおもしろいです。

家につくと、とてもきれいで大きい家でした。それに、二階建てで、ベッドが大きかったです。

食事は、県人会の人たちと食べました。時差ボケで眠りたかったです。

次の日僕達は、野球を見に行きました。会場に行く途中、高速道路をとおりました。何車線もあって、日本の高速道路と全然ちがいました。

ドジャース会場に着いたら、駐車場がとて大きかったです。試合の結果は、負けてしまいましたが、一点差でした。

日本へ帰る三日前、マリリンの家で、さよならパーティをしました。

そろそろ、日本へ帰らなくてはならない事に気付いて、悲しくなっていました。その日の夜マリリンとマリリンの夫は、僕と一緒にステイしていた未来に、英語と日本語を混ぜて、「アメリカに来たら、いつでもここに泊まっていよいよ」と言われて、とてもうれしかったです。

十日間しかいなかったけど、みんな優しくしてくれました。空港ではみんな来てくれて、最後の最後までずって手を振ってくれて感動しました。このような経験ができたのもたくさんの人のおかげだと思っています。



#### ホームステイ

金城 未来(中部農林高等学校 2年)

高校二年生の夏、私は夢のアメリカに行ける事になりました。行けたきっかけは、先生にこのプログラムへの参加をすすめられた事からでした。私は無事このホームステイのプログラムの面接に受かり、アメリカに行けることになりました。私がイメージしていたアメリカは、どこを見てもキラキラした街、というイメージしか頭にありませんでした。でも、私が行ける事になったアメリカは大きな山があったりキレイな住宅街だったりして本当に過ごしやすい街でした。本当に良かったと思っています。私はこのプログラムに参加できて、この夏いい経験をしたと思っています。この経験を生かして、親、先生、友達、ガーデナの県人会のみなさんに感謝しながらこれから近い将来に向けて頑張っていきたいと思います。最後に、このプログラムに参加できて、本当に良かったです。ありがとうございます。

#### 【ハワイ】



#### 充実したハワイの思い出

西原 奈菜(琉大附属中学校 1年)

今、ハワイの生活を振り返ってみると本当に夢みたい楽しく、沖縄や日本では聞けない本場の英語は、夏休みの宿題や塾に追われていたときと比べてみると、とてもキラキラしていた思い出です。

でも、その中でもっとも充実していたことが二つあります。

一つは、パールハーバーです。ここでは、語学などではなく、ハワイの歴史について学びました。そのとき、私達は写真撮影をしてみんなで「はい、チーズ。」というときホストファミリーの人たちが、「ピースはやってはいけない。」と言ったので理由を聞くと、ハワイの歴史でも『悲しい歴史』だからピースはしてはいけないそうです。私は、このことを聞いてハワイの人は歴史や文化を大切にしているすごいと思いました。

ハワイと沖縄は国土など色々な所が共通していたけど、こういう文化のちがいをよく知る場となりました。

そして、二つ目は、『アラモアナショッピングセンター』です。初めて行ってみると、とっても長くお土産などたくさん並んでいて、「沖縄にもこんなのがあったらいいのにな。めっちゃ上等。」と言ったりして見ていると、かわいいキーホルダーなどがあって、それに沖縄にはあまりないタトゥ屋がたくさんありました。

私は、ハワイで沖縄では見られない所をたくさん見れたけどほとんどアラモアナショッピングセンターで見ました。この思い出は、私にとって貴重な体験で楽しかった思い出2位でした。

この二つの思い出の他にも、たくさんの語学訓練になり、とてもたいへん貴重で、将来に役立つ経験をしたと



思います。

そして、ホームステイに行く機会を与えてくれた家族、県の方々に感謝しています。また、ホストファミリーの方々に感謝します。本当にありがとうございました。

---



#### ホームステイで学んだこと

辺土名 盛之(潮平中学校 2年)

僕は、7月24日～8月4日まで、県の海外県人会交流プログラムでハワイにホームステイに行きました。僕は国際交流に興味があったし、アメリカに親戚がいるので、外国のことに興味があり、ホームステイに行こうと思いました。

ホノルル国際空港でホストファミリーと会ったときは、県のプログラムという事もあって、少し緊張していましたが、ホストファミリーの人たちと会った時に、その緊張が少しやわらぎました。ホストファミリーの人たちが笑顔と握手で迎えてくれたからです。僕は、自分の語学力がどこまで通じるか楽しみでしたが、いざホームステイ先で話してみたら、スピードが速くて速さについていけず、もっと語学力をつけておけばよかったな—と思いました。

僕がホームステイ先で印象に残っているのは、文化の違いです。特に食の違いがとっても印象に強く残っています。たとえば、ステーキは、厚さが普段食べているものの二倍くらいあって、大きさも二倍以上で、いつも半分も食べない内におなかがいっぱいになりました。アメリカの人は、こんなにいっぱい食べるから、体も大きく、力強いのかなと思いました。

うれしかった事は、ウチナーンチュがハワイでも自分の飲食店やスーパーマーケットなどを経営して活躍している事を知ったことです。また、ハワイの二世、三世の方達が、故郷のウチナーに強い誇りを持っている事を知ったことです。盆踊りをした時、僕達の地域では、やる人だけやって、やらない人は見ているだけですが、ハワイでは、四歳ぐらいの小さい子どもからお年寄りまで、全員で参加し、三線でのウチナー民謡で踊りを楽しんでいました。ホストファミリーとの十日間を通して、僕は国と国との違いがあっても、人は心と心のふれあいができ、共鳴出来るという事がわかりました。ホストファミリーの方達は、いつも優しく、僕達を楽しませてくれました。僕はとっても感謝しています。

この体験を通して今後、国際交流にこうけんできる人材になろうとより強く思いました。そのためには、今後も英語に力を入れたいと思います。また、今回「エイサーが踊れる？」と聞かれて踊れなかった事がとっても悔しかったので、エイサーや空手など、沖縄の伝統文化を学び、他国の人に自信を持って紹介できるようになりたいです。とってもいい体験になりました。

---



#### ホームステイへ行って

西 由良(首里中学校 2年)

このホームステイへ行く前、私は県人会の事を、ほとんど知りませんでした。沖縄から移住した人々がいる、という事ぐらいしか知りませんでした。だから、ハワイ沖縄センターを見たとき、少しびっくりしました。

でも、今ホームステイから帰ってきて私は、県人会の事も、移住した人々のことも少しわかってきました。たぶんその理由は、ホームステイの中で、県人会の行事に参加したり、交流したりしたからだと思います。

私の印象に残っている、県人会の行事は、盆踊りとピクニックです。盆踊りは、沖縄の伝統文化「エイサー」を本当に一生懸命踊っていました。沖縄の事を誇りに思っているんだなと思い、なんだか嬉しかったです。カチャ

ーシー大会には、小さい子も大人も参加して、楽しそうに踊っていました。私も参加して、楽しかったです。

ピクニックでは、いろんなゲームをする中で、交流を深めました。小学生の女の子2人と、言葉はあまり通じなかったけど、仲良くなりました。英語がもっと話せたら、もっと楽しかったらいいなと思いました。でも、仲良くなれて良かったです。そして、ポリネシア文化センターにも行って、外国の雰囲気も見れて、現地の文化を少し学べたかなと思います。一緒に行ったみんなとも仲良くなれて、ホストファミリーのハツコさん、ダニエルさんとも楽しく過ごせて、本当に良かったです。

少し残念なのが、もう少しハワイに居たかったことです。10日間は長いようで短かったからです。でも、10日間で学んだ事を生かして、沖縄とハワイのかけ橋になれたらいいと思います。県人会の皆さん、いい経験をさせてくれてありがとうございました！ MAHALO！



#### ホームステイに参加して

宮平 杏奈(座間味中学校 3年)

この海外県人会ホームステイ派遣事業に参加して最初はとても不安がありましたが、あとから毎日がとても楽しく充実した10日間が送れました。私がハワイにいて驚いたのは、沖縄に比べて涼しく、過ごしやすいということと、海外のウチナーンチュは沖縄の事をとても大切に思ってくれていることと、Thank youと言ったら必ずYour welcomeと言ってくれる事です。また、日本にいるとあまり目にする事がない左ハンドルの車には違和感がありました。

ホストファミリーの方はとても優しく、ハワイにもう一つの家族が出来た感じがします。

ハワイでは沖縄との共通点や文化、歴史を学ぶことが出来ました。私がハワイで一番印象に残っているのは、ポリネシア文化センターです。ここでは、フラだけでなく、タヒチアンダンスなどポリネシアの6地域のダンスを見ることが出来ました。

しかし、このホームステイで1つ後悔している事があります。それは、日本語が話せる方が沢山いるのでつい日本語で話してしまったことです。せっかくの英語を話す機会だったのにもったいないと思いました。これらからもっと英語を勉強して留学をし、自分の国だけでなく外国にも目を向けたいです。

ハワイに行ってからこれまで以上にハワイへの関心が高まりました。これからもハワイの事について知り、そしてもう一度ハワイに行ってホストファミリーやハワイ沖縄センターの方々に会いたいです。

ハワイを離れる時はハワイにいた10日間がとても短く感じました。

最後に、今回このホームステイ派遣事業に関わってくださった方や両親にとっても感謝しています。とても貴重な体験をする事ができました。ありがとうございました。



#### ホームステイに参加して

金城 杏奈(那覇西高等学校 1年)

私は、7月24日から8月4日まで沖縄から離れたハワイに10泊12日のホームステイをしました。私達の目的はうちなーんちゅのネットワークを広げることでした。少しでもハワイについて学び、またハワイの人も少しでも沖縄のことについて学べたらいいなと思ってこの事業に参加しました。

出発の日、いつもより目覚めよくてワクワクした気持ちでいっぱいでした。那覇空港では、出発式をしました。羽田から成田へ移動して、夜の10時すぎに出発しました。こんなにも長時間飛行機に乗ったのは初めてでした。

ハワイに着くと、昨日に戻っていてまた24日を過ごしました。私は琉大のあっこさんと一緒にいました。今思えば、あっこさんがいないと私は10泊も過ごせなかったと思います。中学で習った英語も、実際英語で聞かれると頭が真っ白になってしまい、なにも頭に浮かんできませんでした。その時、あっこさんが色々教えてくれたり、ときにはあっこさんが伝えてくれたり、本当に助かりました。自分の英語力のなさにショックを受けました。

日常会話はほとんどいい程度、中学の時の教科書で習ったものでした。私も自分から英語をはなしたくて、あっこさんにわからない単語を聞いたりして、ホストファミリーのサリーに話をしたりしました。

私は31アイスクリームが好きで、それをサリーに言ったら、たくさん31を食べに連れて行ってくれました。サリーとロイは私達にとってもよくしてくれました。ご飯のときも洗たくのときも、サリーとロイには感謝でいっぱいです。そして、ハワイの引率をしてくれたあやめさんにはとてもお世話になりました。注意されたこともあったけど、とても充実していて夏休みの最高の思い出になりました。最高の思い出ができたのも、お父さんやお母さんがお金を出してくれて行けたので感謝したいです。



#### ホームステイに参加して

嘉陽田 三佳(首里高等学校 2年)

二週間のホームステイ、私にとってはとても短く感じ、このままハワイに残りたいという気持ちでいっぱいでした。

ハツコおばあちゃん、ジョーンさんは私達にとっても優しく、私達のために色々な所に連れて行ってくれました。ドライブしている時に、素晴らしい景色をたくさん見て、ずっと「WOW！」ばかり言っていたら笑われました。ハワイの食生活には、多少苦しみました。これも違う国の生活習慣を学ぶことができた、いい経験だったと思いました。

ハワイの人々はとても親切で、「沖縄から来た」と言うだけで、たくさん話しかけてくれ、スワップミートではお土産を安くしてくれました。沖縄は愛されているんだな、沖縄に住んでいる者としてとても嬉しく思いました。

一番心配だった英会話、意思表示はしっかりしようと思い、電子辞書を片手にがんばりました。案外、中学校までに習った英語で会話ができて、話すのが楽しかったです。聞くことも、お願いしたらゆっくり話してくれてとても助かりました。

ホームステイに行って、私は「単語力」が不足しているなと思いました。単語の意味さえ理解すれば、なんとなくでも伝えたいことが分かると思いました。このホームステイで、文化の違いをたくさん知り、人々の心の温かさを知ることができました。世界には、まだ私の知らない事が山ほどある、新しい発見がたくさんある、この体験で得たものをたくさんの人に話していきたいと思っています。

おもいきって、このホームステイに参加してよかったです。高校生活の中で最高の経験ができました。本当にありがとうございました。



#### 海外県人会ホームステイ派遣事業に参加して

片山明子(琉球大学法文学部 3年)

今回の10日間に及ぶハワイ滞在は、私にとって大変貴重な体験となりました。なぜなら、海外県人会ホームステイで海外うちなーんちゅの方々に出会い、彼らの故郷沖縄への熱い思いに触れ、私も改めて沖縄の素晴らしさを再認識することができたからです。

私は、将来国際的に働ける人になりたいと考えてきました。でも具体的に何をしたいのかわからず模索して

いる日々でした。しかし、ハワイに暮らすうちなーんちゅとの交流を通して、世界のうちなーんちゅネットワークに携わったことができないかと考えるようになりました。今回のハワイ滞在プログラムでは、ホストファミリーと過ごす時間が多く組まれており、その分ホストファミリーとの距離も早く縮まり、お互いのことをいろいろ話すことができました。私のホストマザーの Sally はうちなーんちゅの日系3世ですが、日本語を話すことができません。しかし、彼女は沖縄への思いを強く持ち、沖縄を度々訪問したり、沖縄の方言の勉強をしたりと、うちなーんちゅとしての誇りを感じました。また、盆踊り祭りで出会った多くのうちなーんちゅの方からもパワフルな「ウチナー魂」を感じ、沖縄人である私も負けてられない！と思うほど、ハワイにもうちなーんちゅの力強さが根付いていると実感しました。そして私は、沖縄とそして海外のうちなーんちゅの皆さんに何か役に立てるような人に将来なりたいと確信しました。そのためにこれからも大学での勉学に励み、語学習得にさらに力を入れ、国際情勢にも目を向け、そして沖縄へ歴史・文化をもっと勉強しなくてはならないと思っています。

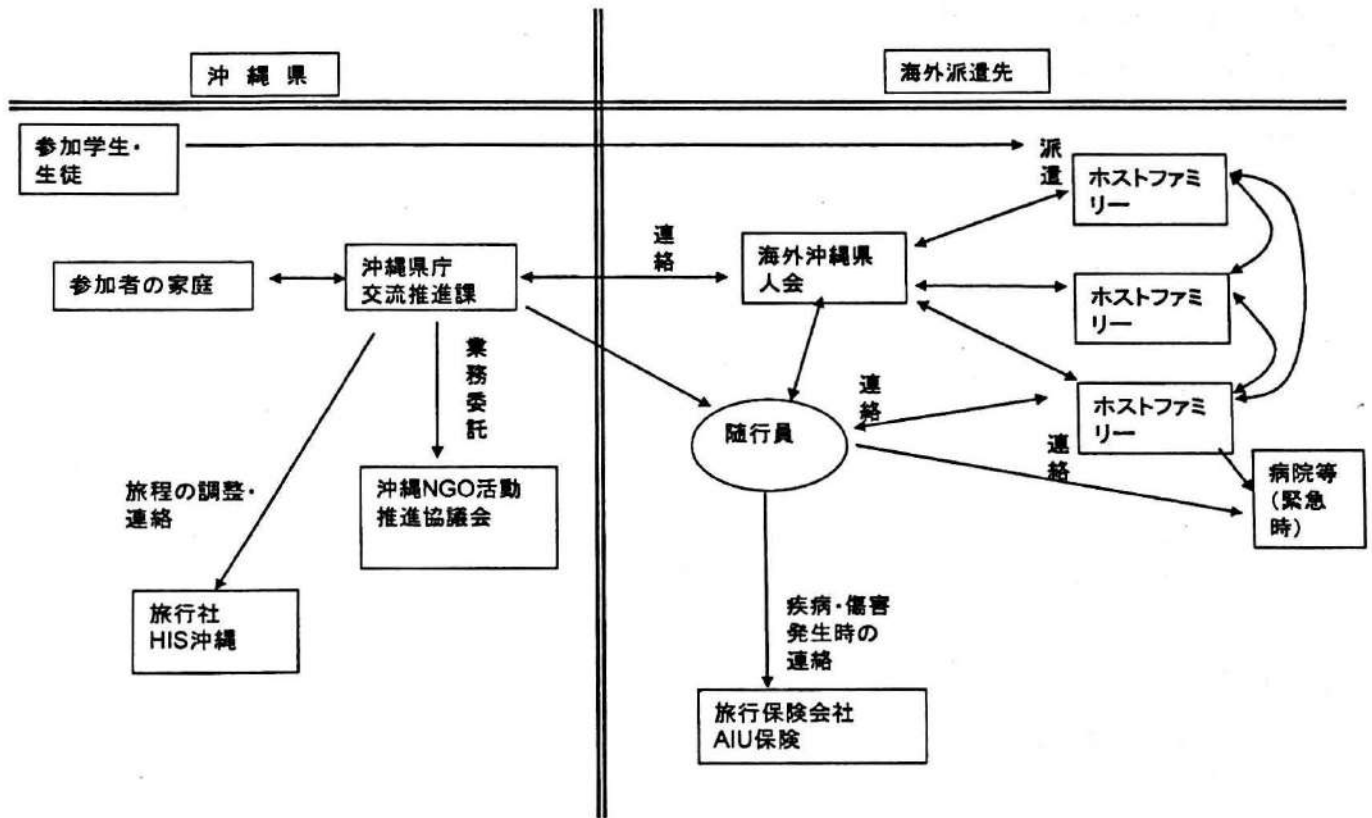
また、観光地として世界的に知られているハワイだけあって、素敵で優れている所が多いと感じました。しかし沖縄にもハワイに負けないくらいの素晴らしい自然・文化・歴史があると確信しています。この「OKINAWA」ブランドを世界中にもっとアピールして、沖縄の素晴らしさを認識してもらいたいです。

この事業に参加して得たものはすごく多かったです。これからもこの想いを大切にして、自分の夢を叶えたいです。

この機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

# 実施体制

## 海外県人会ホームステイ派遣事業 実施体制 2008年度



# アンケート

## (1) 派遣前 (回収数 18)

Q1. このホームステイプログラムであなたが最も期待していることはなんですか？

(期待するものから( )に1~7の優先順位を書いてください)

海外でのホームステイ	海外県人会との交流	語学力の向上	海外経験	将来の就職につながる	外国の文化・歴史	その他
1位	2位	4位	3位	5位	6位	7位

【結果】 1位海外でのホームステイ、2位海外県人会との交流、3位海外経験となっている。海外でのホームステイでは、観光客としてだけではなく、現地に暮らすということを期待していたようだ。

その他の期待は、ホストファミリーの人と仲良くなりたい、ファイヤードンスやフラダンスが見たい、海で泳ぐ、コミュニケーションをとること、友達を作るなどがあげられた。

Q2. 海外県人会の家庭でのホームステイということで安心感や、良いイメージなど、思い描くことがあれば書いてください。

【結果】「沖縄」という共通性や日本語が少し通じるという情報を聞いて、安心感を得ていた。また、ホストファミリーの情報(写真つき)を先に配られたので、優しそうで安心した、会うのが楽しみと期待感もあった。

Q3. 今感じている不安なことを素直に書いてください。

- ・ 入国審査、コミュニケーション、盗難
- ・ 沖縄のことをどれだけ伝えられるか？
- ・ 語学力
- ・ 飛行機での移動
- ・ 時差ぼけがちゃんと抜けてくれるかどうか心配
- ・ お金の使い方

## (2) 派遣後 (回収数 18)

Q1. 滞在中、海外のウチナーンチュの歴史や生活、ウチナーネットワークを学ぶことができましたか？

(施設見学を通して・ホームステイを通して・県人会との交流を通して・他)

【結果】 ホストファミリーや県人会の人たちとの交流を通し、沖縄の文化が根付いていることや沖縄に対する思いが強いことに触れ、概ね学ぶことができた。また、博物館やリトル東京、お盆や日系コミュニティのイベントに参加し、日系社会の様子や歴史を見聞きすることで学ぶことができた。

Q2. 派遣先の地域の方々との交流はできたか？

【結果】 全員ができたとの回答。

\* 印象に残っている交流について(抜粋)

お盆、ホストファミリーや県人会との交流会、ウェルカム・さよならパーティ、同い年の友達ができ、三味線クラブへの参加、ピクニック、県人会の人たちとのカラオケ

Q3. あなたが期待したことはこのホームステイツアーでどのくらい達成されましたか？

【結果】 視野と知見、地域の人達と仲良く触れ合う、コミュニケーションをとる、移民について学ぶ、ハワイの観

光事情を知る、ハワイの異文化を良く知り沖縄との違いを知るなどのテーマを持って参加したが、どの参加者も期待していたことはとても高い割合で達成されていた。

**Q4. 出発前に不安に思っていたこと、行ってみても不安が大きくなったり、問題につながってしまいましたか？**

はい(5) いいえ(13)

「はい」と答えた人だけその理由を書いてください

【結果】うまく英語を話せなかった、ホームシック、英語がもっと話せたらもっと交流できたかな、ジェスチャーをすればいいと思ったけどやっぱり英語じゃないとダメだと思ったなどの理由があがった。

**Q5. 事前オリエンテーションは役に立ちましたか？(複数回答可)**

語学研修	保護者説明会	沖縄を伝える学習	沖縄移民の歴史	参加者同士のコミュニケーション	派遣地からの具体的な情報共有
8名	3名	11名	9名	16名	10名

【結果】2回オリエンテーションを持ったが、参加者同士事前にコミュニケーションをとることができたことが良かったようだ。また、事前に派遣先のことについて学んでおけばよかったという声もあったが、事前に留学生から情報を得られたこと、沖縄を伝える準備ができたことも良かったようだ。

**Q6. その他に事前に学んでいたほうがよかったと思うことはありますか**

【結果】ホストファミリーについて、その地域について、日本・沖縄のこと、お金の使い方、沖縄移民の歴史や沖縄の歴史をもっと詳しく調べればよかった、英語・ハワイ語、マナー、事前学習の仕方

**Q7. 今回は全行程に県の随行員が付きましたが、随行員が付かない場合でも、グループでお互いに協力することで、ホームステイツアーをこなすことは可能だと思いますか？**

はい(6) いいえ(9)

\*「いいえ」と答えた人だけその理由を書いてください:

- ・ 外国で動き回るのは大人がいなくて大変だと思うから。
- ・ チケットの発行にとっても時間がかかるし、慣れた人じゃないと難しいから。
- ・ 随行員がつかなくてもリーダーがグループをまとめたりすることはできたと思うが、大学生一人では細かいところまでは気配りができなかったと思う。随行員がついて大学生の負担が減り、自分の目標を達成でき、楽しめた。随行員がつかない場合は大学生は最低2名いたほうがいい。
- ・ 中学生もいるから、特に大学生がいなくて、高校生と中学生だけとかになるときつい。

**Q8. その他感想、要望・意見などありましたら、書いて下さい。**

(内容について)

- ・ レスブリッジはテーマパークといった感じではなかったが、人との交流が多く「人のあたたかさ」を実感した。
- ・ 家に帰るのが遅くて、ホストファミリーとの交流ができなかったのが少し残念でした。でも、とても充実した毎日でした。
- ・ 中学生、高校生にこのホームステイ事業に参加する目的意識をもっと高く持ってほしい。

- ・ 大変だった。でも優しくしてもらいとても楽しかった。今の自分には単語力が不足していると思った。こんな  
にいいホームステイは私にとってとてもいい経験になった。世界に目を向けるいい機会になった。
- ・ ホストファミリーとグループ行動を交互にしたほうがいい。パールハーバーはよかった。

(全体を通して)

- ・ 最高に楽しかった。また行きたい。
- ・ また同じメンバーで行きたい。
- ・ 再会の旅行に行きたい。
- ・ アメリカに行ってよかったです。とっても楽しかったし、勉強にもなりました。
- ・ このプログラムに参加できて本当に良かったです。
- ・ 将来の役にたった。

### (3)ホストファミリーより

#### **1. 今回のこの事業に対する感想を記述してください(良かった点、改善すべき点、派遣生徒に対して要望したいこと、その他)**

- ・ 成熟した生徒達だったので、良い関係が築けた。
- ・ 小規模のグループだといろいろな所へ案内しやすく良かった。
- ・ とても良かったとおもう。年齢構成、人数共に適当であった。ゲストは英語をよく話し、それは私たちにとって重要であった。
- ・ 当協会(県人会)は多くのホームステイをやってきましたが、今回のグループが良かったと思います。皆さんよくがんばりました。
- ・ 今年のホームステイの生徒は若さ故に、未熟な面も見られた。
- ・ 生徒たちは一般的に内気でしたが、振る舞いを変えるよう努力していました。もし参加者が今回のような若年層であれば、沖縄でより多くのオリエンテーションが必要です。その方が生徒とホストファミリー双方のためになります。
- ・ 沖縄から海外へ渡った移民がどのように現地の生活様式に適應できるよう努力し、溶け込んでいったかについて話し合い、理解を深める機会を受け入れ側でも持つ方が良いと思います。

#### **2. 今回のホームステイの実施時期については、適当でしたか？**

- ・ はい。適当でした。
- ・ 10日間は、ホストファミリーにとっては良かったが、生徒達にとっては短かっただろう。
- ・ 生活態度等の問題点があったため、長く感じられました。

#### **3. 今回のホームステイ派遣事業についての県と海外県人会との調整時期について、意見・要望はありますか？(現地でのホストファミリーを確保するため、いつごろまでに実施日、派遣人数などを海外県人会へ知らせる必要があるか など)**

- ・ 絶対に到着する8~12週間前に知らせてほしい。
- ・ 少なくとも4~6週間前には知らせてほしい。
- ・ 4~5ヶ月前にどのような生徒がくるのか、年齢、どこの出身か知らせてほしい。



- ・ 夏は生徒を受け入れるのに私たちにとっては良い時期。しかし休暇に行く時期でもあるので、2~3ヶ月前には知らせるべき。今年はホストファミリーを見つけるのに十分な時間がなかった。代わりのホストを探すのに時間がなかった。
- ・ こっちでは夏の期間に旅行に行く人達が多いので、計画をしないうちに調整してほしいと思う。半年、一年前でも事業(期日)が決まり次第通知してほしい。
- ・ もっと準備期間が必要。1ヶ月は短すぎる。特に学びたいことがあれば、計画をたてるためにも時間が必要である。

**4. ホームステイ参加者の資質で大切な事は何ですか？以下の( )に1~7までの優先順位を書いてください。**

語学力	沖縄を伝えようとする態度	県人会メンバーとの交流	積極的な態度	国際交流や外国に対する関心	ホームステイに対する関心	その他
1位	5位	2位	2位	6位	4位	7位

その他: 成長レベル

**5. 今回受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか？(感想を述べてください)**

- ・ こちらの生活にとっても興味を持っていた。
- ・ 彼女はとても素晴らしい。良く手伝ってくれ、料理、洗濯、掃除を自発的に行い、とてもきちんとしていた。そして色々な質問をした。
- ・ 着いた日から、良くやっていた。生活もホストファミリーと仲良くやっていた。短い日々の中でがんばっていた。
- ・ 2人ともとてもやる気があり、質問もした。彼女達は私たちや互いに良くしていた。私は食べる量や洗濯の回数を増やすなどを除いては習慣を変えることはなかった。
- ・ 明るく前向きな子もいれば、未熟さが感じられる子もいた。
- ・ 英語が通じず、コミュニケーションに苦労することがあった。

**6. 次回以降についても、ホームステイ受け入れが可能なホストファミリーとして、ホストファミリーバンクに登録しても良いですか？**

- ・ はい。
- ・ はい。しかし、私たちが受け入れるかどうかはその年、その時期によるでしょう。
- ・ いいえ。
- ・ 来年はこの時期に旅行する予定なので、受け入れることができない。その後の年については、今は決められない。

**7. その他、県に対する要望等があれば、書いてください。**

- ・ 今後共、若い人達に多くのプログラムを作って、多くの人々が、多くの体験を出来ます様にして下さい。
- ・ 少なくともグループの中で一人は英語をよく話すことが出来るかどうかということは私たちにとって重要である。

- ・ このホームステイプログラムは生徒を旅行者として扱っているように感じた。人生における十分な成長のための貴重な何かを学ぶことが必要であり、生徒が達成するための学習目標を持つべき。はっきりした目標がない現状では、県のお金と私たちの時間がこのように使われることを良いとは思わない。

【ハワイ】

ハワイ沖縄センター到着



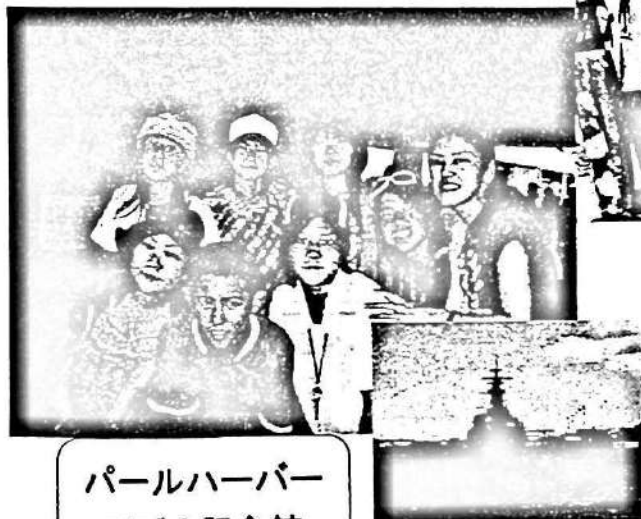
沖縄からハワイへの移民の歴史について、たくさんの資料が展示されています



盆踊りも体験しました。ハワイの  
人たちはみんな上手でびっくり！



ショッピング風景。  
さ～て、何を買おうかな??



パールハーバー  
アリゾナ記念館



村人会でのピクニック



ポリネシア文化センター



タトゥー初体験



ダイヤモンドヘッド山頂にて



SUGOIランチ  
ボリューム満点!



ヌアヌハりの突風!!



ウォーターアドベンチャーパーク  
日焼け対策したけどみんな真っ黒に...



♪アロハパーティー♪

ハワイ沖縄連合会、ホストファミリーの皆さん  
ありがとうございました!

【ガーデナ】

ロサンゼルス空港での初対面



北米沖縄県人会館



ウェルカムパーティ、ワークショップ、さよならパーティなど、みんなで集まる時に利用しました。

ウェルカムパーティ



県人会・ホストファミリーの方々が暖かく迎えてくださいました。

リトル東京めぐり

リトル東京を回りながら、日系移民の歴史について学びました。



第二次世界大戦時に、日系二世の人たちで構成された部隊の碑。ボランティアの方の説明を聞いているところ。多くの戦争参加者の名前が刻まれており、沖縄の人と思われる名前もありました。

盆踊り



リトル東京で、西本願寺の盆ダンスに参加！

アメリカの友達と交流



沖縄について発表

沖縄の歴史、料理、着物(エイサー用)について発表。とても好評でした！！



さよならパーティのときにも発表。たくさんの人に見てもらいました。

さよならパーティ

三味線と大正琴の演奏に瑞希さんが参加しました！



練習の様子



県人会・ホストファミリーのみなさん、ありがとうございました！！



【レスブリッジ】



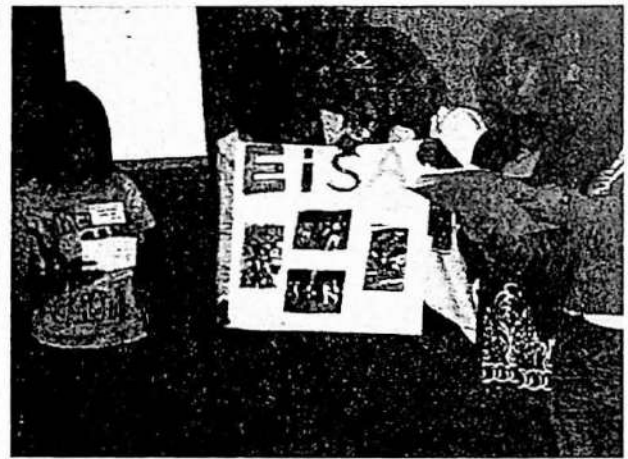
カナダの大自然を満喫。  
カナダは広い！



至る所で歓迎を受けました。  
みんないい人。



「友好都市の証」の下で。  
カナダ・レスブリッジ市と沖縄県・南風原町。



沖縄のことを発表しました。  
英語もペラペラ(?)。



沖縄とカナダレスブリッジ、地理的には離れて  
いても心はひとつ。レスブリッジ沖縄文化協会  
の皆様、本当にありがとうございました。



本事業をとおして、改めて「ウチナーネットワーク」の絆の強さを実感しました。遠く離れた地において生活しながらも、ルーツとしての「ウチナー」を強く意識し、活動する海外県人会の皆様との交流は、かけがえのない体験となりました。今回ホームステイを受け入れて下さいました、ハワイ沖縄連合会、北米沖縄県人会、レスブリッジ沖縄文化協会の皆様には、大変お世話になりました。現地にて温かい心でもてなして頂き、いくら感謝してもし尽くせない思いです。

参加者に関しては、この充実した期間の中で、楽しむと共に多くのことを学んだと思います。慣れない海外での生活の中で戸惑うこともあったと思いますが、異文化についても積極的に吸収して対応していました。事前に沖縄についてのプレゼンテーションを用意していきましたが、現地では英語で発表し、アドリブも加えたものを見事にこなして見せるなど、私達の想像を超えることもしばしばありました。現地の皆様との交流の中で、沖縄から来た私たちをこのように歓迎してくれたことや、温かい心とのふれあいを経験し、「ウチナーネットワーク」についても強く感じるものがあつたのではないのでしょうか。彼らには、この経験を何らかの形で今後につなげ、成長していくことを期待するところです。また現在でも、海外を視野に入れた将来のビジョン、沖縄について学ぶ意欲、または沖縄芸能等に取り組む意欲の向上など、意識に大きな変化をもたらしたという声を聞くことができ、この事業に関わられて良かったという思いでいっぱいです。

平成20年度海外県人会ホームステイ派遣事業の10泊12日間、大きな事故や体調不良もなく無事終えることが出来、また大きな成果を手に入れました。実施にご協力をいただいた多くの関係者の皆様へ深く感謝致します。ウチナーネットワークの大切さを実感した今、ウチナーネットワークがさらに発展し、今後も継承されていくことを願い、今後の活動に精進する次第です。(沖縄県観光商工部交流推進課 玉城大河、川口あやめ)

北米沖縄県人会、レスブリッジ沖縄県人会、ハワイ沖縄県人会の皆様、そして沖縄の子どもたちを家族の一員のように受け入れてくださったホストファミリーの皆様のご協力により、本プログラムに参加した18名がとも充実した10日間を過ごすことができました。海外で活躍する沖縄県系人と交流したい、海外の文化に触れたいという強い気持ちを持って参加した18名の参加者が10日間という短期間ではありましたが、多くのことを学んだことと思います。将来は海外をも視野に入れ、沖縄について学ぶ意欲や外国語学習・異文化理解への態度の変化なども見られました。

各訪問先では、沖縄移民の歴史、県系人の家庭にホームステイしながらその地の生活や文化に触れ、コミュニケーションの難しさ・楽しさを体験しました。温かいおもてなしと、沖縄から遠く離れていても沖縄を想う熱い気持ちを目の当たりにし、ウチナーネットワークについて考えることがあつたことでしょう。本事業を通して、多くのことを生き活きと吸収していく参加者の様子と、海外と沖縄とのつながりが子ども達にどれだけ豊かな学びを与えることができるのか、本報告書を通してお伝えすることができれば幸いです。

今回は、オリエンテーションから昨年度参加者・県費留学生の協力もありました。本事業を通して、沖縄と海外とのつながりの大切さを実感した参加者が続く沖縄の子ども達をサポートし、海外県人会、また同世代の県系人とのつながりを考えていく場を形成できればと思います。沖縄 NGO 活動推進協議会は、今後参加者がこの経験、出会いをどのように活かしていくのか、長いスパンで見守り、応援し、また海外に住むウチナーンチュとのネットワークを広げ深める活動に関わっていきたい所存です。

本事業を通してご協力頂きました、海外県人会の皆様、参加者ご家族の皆様、沖縄県交流推進課の皆様へ心よりお礼を申し上げますと共に、皆様のご発展をお祈り申し上げます。

(沖縄 NGO 活動推進協議会 金城さつき)



平成20年（2008年）度海外県人会ホームステイ派遣事業報告書

発行者 沖縄県観光商工部交流推進課

住 所 〒900-8570 那覇市泉崎1丁目2番2号

電 話 098（866）2479

FAX 098（866）2765

Email アドレス aa050400@pref.okinawa.jp

<http://www.pref.okinawa.jp/ied/>

制 作 沖縄NGO活動推進協議会

住 所 〒901-2211 宜野湾市宜野湾3-23-52 1F

電 話 098（892）4758

FAX 098（892）9908

Email アドレス ocn@oki-ngo.or.tv

<http://www.oki-ngo.or.tv>